

スマ養殖試験

企画・栽培養殖部 研究専門員 仁部 玄通

【背景と目的】

鹿児島県の魚類養殖業は、ブリ類等の主力魚種に偏重した状況にあり、魚価の低迷や餌代の高騰などにより、厳しい経営状況にあることから、新魚種の導入により養殖対象種の多様化を図る必要がある。

天然海域で釣獲される小型スマは、成長すると食味が良く、市場評価も高いが、現状では有効利用されていない。

そこで、漁獲されたスマ天然種苗を育成し、成長や生残率等を明らかにすることにより、養殖対象種としての有用性を確認し、実用化の方法を検討することを目的とする。

【スマとは】

分類：スズキ目サバ科スマ属スマ

分布：インド・太平洋の温帯・熱帯域。南日本沿岸域の表層に生息

地方名：オボソ、ホシガツオ、ヤイト、セガツオ

特徴：カツオやヒラソウダに似るが、胸鰭下方の小黑斑で区別可能。

体長1m。ブリ類の小割生簀で養殖が可能



【内容・成果】

＜種苗採捕＞

漁法：曳縄

時期：平成30年8月下旬～10月下旬

漁場：野間半島沖

尾数：2,876尾

サイズ：700g～1kg

＜種苗育成試験＞

場所：南さつま市野間池

施設：円形生簀2面(φ15m, φ17m)

期間：平成30年8月下旬～31年3月

給餌：冷凍アジ・サバ等、6日/週

評価：生残、成長等、脂質含有率、官能評価



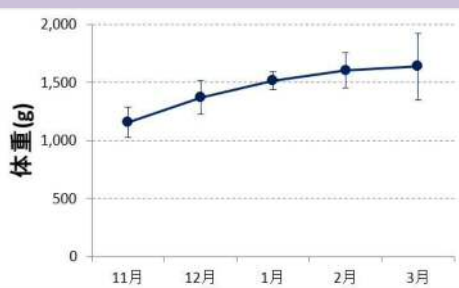
非破壊での脂質含有率測定

水温と生残

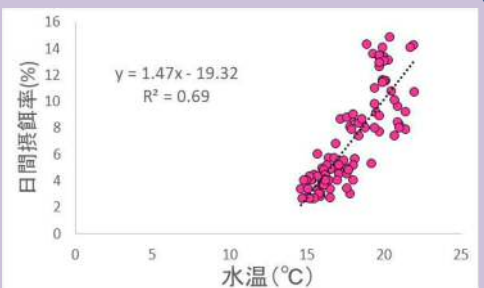


水温：14.6～28.2℃，生残率：98.0%

成長・摂餌・増肉



1.2kg(11月)→1.6kg(3月)
増肉計数(摂餌量/増重量):20.3

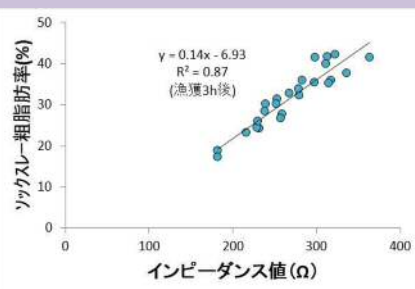


日間摂餌率：2～15%(低水温期に低下)
(摂餌量/魚体重・日)

脂質含有率

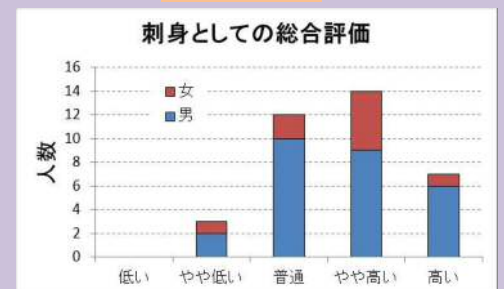


脂質含有率は2月にピーク(37%)



ソックスレー測定値とインピーダンス値に高い相関
→非破壊での脂質含有率測定が可能

官能評価



総合評価は5段階中3.7
個人差は大きいですが、概ね高評価

【今後の課題】

- ・出荷サイズ(2kg)までの成長等を把握
- ・天然種苗の採捕が不安定→人工種苗の活用[R2年度から別事業で実施予定]
(H28,29年度の採捕は数百尾)

